下北半島のサル

2012年度（平成24年度）

調査報告書

NPO法人
ニホンザル・フィールドステーション

下北半島のサル

2012年度　(平成24年度)

調査報告書

平成25年4月

特定非営利活動法人　ニホンザル・フィールドステーション

平成24年度　下北半島のサル　調査報告書

目　次

I　調査の概要

1. 調査目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査地域 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
3. 調査内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
4. 調査ならびに調査結果への取り組み方（姿勢） ・・・・ 2

II　調査結果

1. 夏季ニホンザル調査結果 ・・・・・・・・・・・・・・ 5

2. 事前調査　i）建川氏提供の情報 ・・・・・・・・・・ 18
　　ii）事前調査 ・・・・・・・・・・ 18

3. 冬季ニホンザル調査結果
　A）大畑・薬研地区 ・・・・・・・・・・・・・・ 19
　B）脇野沢・湯の川地区 ・・・・・・・・・・・・ 28

4. 補足調査 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

5. まとめ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

III　資料

資料 1　下北A群　年表 ・・・・・・・・・・・・・ 46

表紙写真
A2-85群　ハギ（右）とムギ（左）の親子
2012年2月9日　蛎崎地区

I　調査の概要

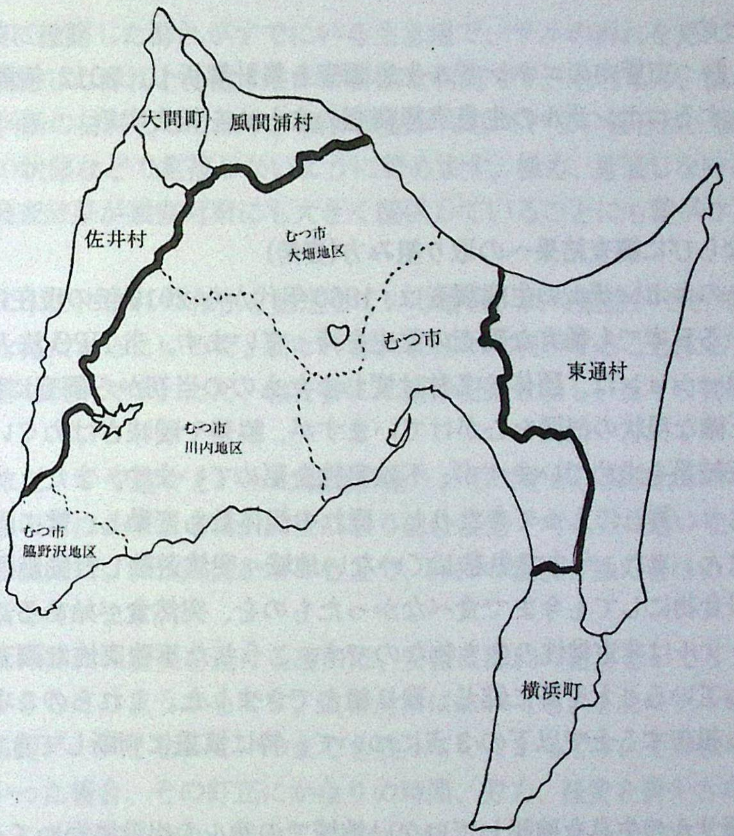
1. 調査目的

下北半島に生息するニホンザルは、1970年に「下北半島のサルとその生息地」として国の天然記念物に指定された。その後、生息個体数・群れ数が増加、生息域の拡大等により、農作物被害の広域化が進み、民家周辺域に定着するなど、地域住民との軋轢が増大し社会問題化している。

地域住民とニホンザルとの共生の確立が急務となっており、共生に必要な情報を得るため、むつ市管内のニホンザルの実態生息調査を実施した。

2. 調査地域

むつ市管内



調査対象地域

3. 調査内容

1. むつ市管内のニホンザル生息調査について

むつ市管内に生息するニホンザル個体群の現状について、特定非営利活動法人ニホンザル・フィールドステーションが

① 事前調査として、2012 年 8 月に実施した夏季ニホンザル調査、建川氏から提供を受けたサル情報等の解析、2012 年の秋以降冬季調査までの間に事前調査を実施した。

② 冬季ニホンザル調査として、2012 年 12 月 21 日～26 日大畑・薬研地区、2012 年 12 月 25 日～29 日脇野沢・湯の川地区のニホンザル実態生息調査を実施した。

③ 補足調査として、2013 年 1 月末まで脇野沢地区のサルの調査を実施した。

2. まとめ

むつ市管内のニホンザル生息調査を集計解析し、2012 年度むつ市管内に生息するニホンザルの生息実態調査のまとめを報告する。

4.. 調査ならびに調査結果への取り組み方(姿勢)

下北半島のニホンザルの生態調査は、1960 年代から 2013 年の現在に至るまで、継続調査されている日本でも稀有な調査の歴史を持っています。当 NPO 法人ニホンザル・フィールドステーションは、団体の名称は変わったものの当初から調査に携わってきました。

毎回、正確な現状の把握を心がけていますが、誤差や曖昧さはぬぐいきれず、より真実に近い調査結果を求めていますが、不確実性を秘めています。また、サル自体も突然群れから離れたり、群れに入ってきたりし、群れの個体数も変動し、常に同じ数がいるものではありません。また、今まで生息していない地域へ突然遊動し行動範囲を広げることもあります。採食物にしても今まで食べなかったものを、突然食べ始めることもあります。このように、サルは非定常性の生き物なのです。こうした不確実性な調査と非定常性なサルを対象としていることを肝に銘じ、取り組んできました。これらのことを念頭に、調査の結果を出し報告する上で以下の 3 点について、特に慎重に判断してきました。

① 今までサルの生息を確認していない地域でのサルの出没について。(新群の扱い)

突然、サルが湧いて出るわけではありません。まず、出没したサルがハナレザルか否か、複数だとしてもオスグループかどうか、群れだとしたらその個体数や構成(ベビーの数やオトナオスの数など)、と状況把握を第一に行います。ハナレザルやオスグループだとした場合、その旨を報告するにとどまります。出没したサルが群れの場合、近隣のサルの群れの実態把握が必要となります。近隣の群れのこれまでの個体数

や構成、生息域、観察地点などを精査しなければなりません。個体識別が可能な場合は重要な判断基準となります。そして、あくまでも同時観察を原則とし、新たな群れについて群れと認定するかどうか、どの群れからの分裂群か、を判断します。一時的なサブグルーピングということも、多々あります。確実なのは、もう一度しばらく経過してから、再発見することで確実性が増すことになります。この場合も、同時観察が基本です。

② 過去にサルの群れを確認し、群れ名も明らかにしている地域で、サルの群れを観察した場合について。(群れの重複防止)

下北半島に生息するサルの群れには、調査ごとに群れの確認がとれ、個体数も構成もほぼ正確に記録できる群れもいますが、全てがそういった継続確認できる群れとは限りません。

2～3 年前に確認した群れがすでにいる生息地で、サルの群れを見た場合、通常 2～3 年前に確認した群れと推定するのが自然な判断です。もちろん、個体識別ができていれば、判断の材料となります。個体識別ができていない場合は、個体数や構成、近隣の群れの状態などで重複しないように努めます。極力、重複しないように心がけることは、調査結果が猿害対策にも大きく関係していることにも繋がり、大変重要なことです。

その地域にすでに群れの存在を認定している場合、同時観察ができていない以上、サルの群れを見たからといって、新しい群れと軽々に判断することはしません。それはかなり乱暴な判断です。ただ、報告書には観察記録を残し、後々の判断の材料にします。

新しい群れだ、いや違うといった議論に陥りがちですが、真実はわかりませんし、そこが問題なのではありません。調査に取り組む姿勢や考え方の違いなのです。わたしたちＮＰＯ法人は、より真実を求める上で、群れの重複を極力避けることを第一とし慎重に判断しています。

新しい群れや群れの重複を避ける理由は、安易に群れの認定をしてしまうと、その結果が一人歩きしてしまうからです。猿害対策においても、下北のサルの生態調査においても、基礎データとなっていつまでも残っていくからです。その後の調査で、判断ミスとわかった場合、その訂正にかなりの時間、労力、経費を費やさなければなりません。そうした覚悟もなく、軽々しく群れの認定はできないのです。慎重さが求められるのです。

③ 群れの名称について

1960 年代下北半島には、Ａ群、Ｏ群、Ｂ群、Ｚ群、Ｍ群、Ｉ群の 6 群が確認されていて、その後Ｕ群が加わりました。現在、確認している群れは、全てこの 7 群から

の分裂群ということになります。ただ、群れの数も多くなり、生息地が山深いことなどで、継続して確認できていたとはいえません。かなり長期間、確認が取れていない間に、分裂を繰り返し、出身そのものまでがわからなくなった群れも多くあります。

群れの名前は、その群れの出身がわかり、いわば群れの歴史を示すものです。以前、別の調査会が既存の群れ名を変更して新しい名前で報告したことがありました。下北のサルの実態を探る上で紛らわしくわかりづらいことを指摘され、既存の群れ名に直す結果となりました。調査の体制や主体が変わっても、既存の群れ名を踏襲することは、当然のことであり、サルの歴史や現状の分析、猿害への対策など、広く下北半島のサルと関わる上で、根幹となることだからです。

群れ名は、はっきりと分裂が確認でき、2つまたは3つになった場合は、アルファベットの次に数字を加え、出身がわかるように工夫されています。次々と分裂している場合は、アルファベットと数字を交互に組み合わせています。ただ、分裂の際、出身群が判らない群れは、発見地点や流域をとって、○○沢の群れとか、○○山の群れといった地名、河川名などがついています。出身群がわかり次第アルファベットが入った群れ名になり、便宜上つけている群れ名ということになります。

群れ名は、NPO法人ニホンザル・フィールドステーションが名付けているわけではありません。各地域のサル調査会がつけています。

以上、3点のことに特に留意して、NPO法人ニホンザル・フィールドステーションは、調査に取り組んでいます。

Ⅱ 調査結果

1. 夏季ニホンザル調査結果

◎ 調査の概要

2012年8月5日～8月10日の6日間、46名の調査員が参加した。

調査範囲は、むつ市脇野沢全域・むつ市川内町蛎崎地区男川流域・佐井村牛滝地区むつ市川内町川内ダム周辺・むつ市川内町湯の川地区とした。

林道及び歩道の踏査を主体とし、直接観察に心がけフン等のフィールドサインの情報も得、調査結果に反映させた。

調査前半は晴れの日が多く、後半は午前中が霧雨で午後から晴れといった気象状況だった。懸念していたアブも少なく、比較的調査の条件は良かった。

◎ 調査結果

●A2－84 a 群

8月5日　田の頭沢林道で発見。16:05～16:40 林道横断時に91頭をカウント。

8月6日　脇野沢斎場裏から瀬野林道へ移動。

8月7日　調査せず。

8月8日　調査せず。

8月9日　寄浪地区で発見。牛の首岬から西へ道路を横断する。

8月10日　調査せず

《 構成 》　2012年8月5日　田の頭林道を北から南へ横断時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	7	18	18	43
中	1		19	20
小			14	14
ベビー			14	14
計	8	18	65	91

91頭(内14ベビー)

●A2－84 b 群

8月5日　調査せず。

8月6日　寄浪－新井田間の道路周辺で群れを発見、群れは寄浪集落方向へ移動。その後、13:00～14:30 寄浪墓所周辺を東から西へ移動する際、47頭＋αをカウント。

8月7日　　蛸田地区で発見。観察はできたもののカウントのチャンスはなかった。
8月8日　　芋田地区東で発見、その後蛸田地区方向へ移動。
8月9日　　調査せず。
8月10日　　調査せず

《　構成　》　　2012年8月6日　　寄浪地区墓所周辺を東から西へ移動時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	2	13	1	16
ワカモノ	2		1	3
4～5歳			2	2
3～4歳			2	2
2～3歳			5	5
1～2歳			7	7
ベビー			8	8
年齢不明			4	4
計	4	13	30	47

47頭（内8ベビー）＋α

●A2－84ｃ群

夏季調査期間中の群れの確認はできなかったが、事前調査でイボ崎の海岸線で12頭を観察している。

12頭（ベビーなし）

●A2－85群

8月5日　　14:45 ロ広林道出合いで発見。14:56～16:45 ロ広出合いの広場を東から西へ移動するときに85頭をフルカウント。
8月6日　　調査せず。
8月7日　　イノシシの館裏で確認。
8月8日　　調査せず。
8月9日　　調査せず。
8月10日　　調査せず。

《　構成　》　　2012年8月5日　　ロ広川出会いの広場を東から西へ移動時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	4	24	1	29
ワカモノ	4	4	3	11

4～5歳	2	5	3	10
3～4歳	1	2	1	4
2～3歳	3	2	2	7
1～2歳	2	1	14	17
ベビー			7	7
計	16	38	31	85

85頭（内7ベビー）

●A87群

8月5日　　調査せず。

8月6日　　芋田地区東で発見。その後、9:30～15:00 東から西へ移動する群れを74頭＋αをカウント。18:30 九艘泊サル橋付近まで移動していた。

8月7日　　調査せず。

8月8日　　8:30 九艘泊－滝山線の道路峠より300m南で群れを発見。10:40 まで観察。その後、群れはサル橋付近まで移動する。

8月9日　　調査せず。

8月10日　　調査せず。

《 構成 》　　2012年8月6日　　芋田の砂防ダム周辺

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	2	16	1	19
ワカモノ	6	2		8
4歳	3	2		5
3歳	1	5		6
2歳		2		2
1歳	2	2		4
ベビー			8	8
年齢不明			22	22
計	14	29	31	74

74頭（内8ベビー）＋α

※　O群関連の観察情報

O群は、O-1群、O2-A群、O2-B群の3群が存在する。各群れごとに踏査しているが、生息地が重複していることなどから、調査日時と調査地域については一括して報告する。

8月5日　海峡ラインを北上大荒川林道入り口まで、海峡ライン石碑から南下人切山から尾根上を南下ゲート近くまで、武士泊林道、面木林道、細間林道、上下細間牧場から尾根を越し面木林道へ、青石林道、下細間林道、滝山地区西の森を5パーティで踏査。

8月6日　海峡ラインを北上長右エ門林道アンド山西まで、武士泊林道、源藤城林道、蛎崎越林道、面木林道、細間上下牧場、青石林道、穴間林道、九艘泊ー滝山線の道路、下細間林道を6パーティで踏査。

8月7日　海峡ラインを北上長右エ門林道アンド山西まで、武士泊林道、細間上下牧場、青石林道、穴間林道、九艘泊ー滝山線の道路、下細間林道を8パーティで踏査。源藤城林道、蛎崎越林道、面木林道、細間上下牧場、青石林道、穴間林道、穴間から海岸線の尾根を面木林道滝ノ沢の上まで、九艘泊ー滝山線の道路、下細間林道を8パーティで踏査。

8月8日　海峡ラインを北上、武士泊林道、武士泊海岸まで、源藤城林道、蛎崎越林道、面木林道、細間上下牧場、青石林道、穴間林道、九艘泊ー滝山線の道路、穴間から海岸線の尾根を面木林道滝ノ沢の上まで、下細間林道までを8パーティで踏査。

8月9日　海峡ラインを北上長右エ門林道アンド山西まで、源藤城林道、蛎崎越林道、面木林道、細間上下牧場、青石林道、穴間林道、九艘泊ー滝山線の道路、下細間林道、野平から海峡ラインを南下、まで10パーティで踏査。

8月10日　海峡ラインを北上大荒川林道、武士泊林道、武士泊海岸まで、蛎崎越林道、細間上下牧場、までを4パーティで踏査。

●O1群

8月4日、5日、6日、7日、8日、9日、10日の7日間、下細間沢、細間林道、青石林道出合い付近、穴間ー青石林道、細間ー滝山林道、細間林道で観察。

≪　構成　≫　　2012年8月10日　　細間林道

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	1	12		13
ワカモノ	4	1	2	7
4～5歳	2			2
3～4歳	2	2	5	9
2～3歳	1	2	3	6
1～2歳			3	3
ベビー	2	1	8	11

年齢不明			6	6
計	12	18	27	57

57頭（内11ベビー）＋α

●O２－A群

8月5日、6日、7日、8日、9日、10日の6日間、海峡ライン湯ノ沢岳東、海峡ライン大荒川林道入り口付近、海峡ライン石碑南あたりの海峡ライン周辺で観察。

≪ 構成 ≫　　2012年8月8日　　海峡ライン石碑付近

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	2	13	2	17
ワカモノ	2	1	3	6
4～5歳		1		1
2~3歳			3	3
1～2歳			2	2
ベビー			8	8
年齢不明			2	2
計	4	15	20	39

39頭（内8ベビー）＋α

●O２－B群

8月5日、6日、7日、8日、9日、10日の6日間、海峡ラインM字カーブ付近を中心に海峡ラインの南地域で観察。

≪ 構成 ≫　　2012年8月9日　　海峡ラインM字カーブ南

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	2	8		10
ワカモノ	1			1
4歳			2	2
3歳			3	3
2歳			2	2
1歳	2	2		4
ベビー	2		1	3
計	7	10	8	25

25頭（内3ベビー）

●U群

8月6日　牛滝集落への道路周辺で２つの群れを確認。一つはテレメ装着個体を確認。

8月7日　牛滝集落、海峡ラインを仏が浦方向へ車でパトロール。

8月8日　海峡ライン、牛滝集落、海峡ラインを仏が浦方向途中までを車でパトロール

8月9日　海峡ライン、海峡ラインを仏が浦方向途中までを車でパトロール

大荒川林道の長衛門林道で大規模な土砂崩れがあり、長衛門林道の踏査が不可能であった。8月6日に牛滝集落への道路を南から北へ移動するサルの群れ52頭＋αを観察したが、この群れがZ2－B乙群の可能性はあるものの、同日かなり近い海峡ラインの道路北側でも別の群れ（テレメ装着個体確認）も観察しており、今回の調査では52頭の方をU群とする。

≪　構成　≫　　2012年8月6日　　牛滝集落への道路を南から北へ横断時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	4	18		22
ワカモノ	2			2
4歳			2	2
3歳			4	4
2歳			2	2
1歳			7	7
ベビー			13	13
計	6	18	28	52

52頭（内13ベビー）＋α

●男川の群れ

8月5日　調査せず。

8月6日　調査せず。

8月7日　男川林道とその支流小川平林道、松山沢林道、滑川林道、板家戸沢林道、西大家戸沢林道を踏査。

8月8日　男川林道とその支流小川平林道、滑川林道、板家戸沢林道を踏査。

8月9日　男川林道とその支流小川平林道、板家戸沢林道、西大家戸沢林道、宿野辺川の西又沢林道、金八林道を踏査。

8月10日　男川林道とその支流小川平林道、サイベタ沢林道、宿野辺川の西又沢林道、金八林道を踏査。

8月7日、8日、9日、10日と4日間、男川林道、小川平林道、サイベタ沢林道、宿野辺川の西又沢林道、金八林道を踏査したが、新しい食痕と古いフンを確認しただけ

で、群れの目撃はできなかった。ただし、海峡ラインで調査期間中にO2－A群を観察していて、同時期に複数頭の食痕を確認していることから、男川流域に群れがいたことは間違いない。

※　川内川・川内ダム周辺の群れの情報

調査日時、調査地域については、一括して報告する。

8月5日　調査せず。

8月6日　川内ダムを経由し牛滝地区、仏が浦途中まで、川内―佐井線峠を少し越えた地点まで、新助林道を車でのパトロールと踏査。

8月7日　川内ダムを経由し牛滝地区、仏が浦途中まで、川内―佐井線の砥石川林道、湯の川開拓地域、湯野小川林道、名由川林道、和白川林道を車でのパトロールと踏査。

8月8日　川内ダムを経由し牛滝地区、仏が浦途中まで、川内―佐井線峠を少し越えた地点まで、砥石川林道、三九郎川林道、湯の川開拓地域、新助林道、名由川林道、和白川林道を車でのパトロールと踏査。

8月9日　川内ダムを経由し牛滝地区、仏が浦駐車場まで、桂沢林道、野平から海峡ラインを南下、川内―佐井線峠まで、、砥石川林道、三九郎川林道、新助林道、を車でパトロールと踏査

8月10日　名由川林道を踏査。

●安部城北の群れ

8月6日以降5日間カモシカラインへ調査に入るが、群れの目撃は6日と9日の二日間であった。

≪　構成　≫　　2012年8月6日　　和白沢を左岸から右岸へ移動時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	3	8	1	12
ワカモノ	4			4
1歳			1	1
ベビー			4	4
計	7	8	6	21

21頭（内4ベビー）＋α

●Ｍ２－Ｂ群関連

８月６日以降５日間カモシカラインへ調査に入るが、Ｍ２－Ｂ群関連の群れの確認は取れなかった。ただ、８月９日カモシカラインヘアピンカーブ手前でオス４頭を確認した。これが群れの一部かどうか不明だが、今回はオスグループとした。

●Ｚ２－Ｂ乙群

８月６日に確認。テレメ装着個体を確認。海峡ラインの牛滝地区の山側の斜面で観察。

≪　構成　≫　　2012年８月６日　　　海峡ライン牛滝地区　道路北側斜面

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	2	8		10
ワカモノ	2	1		3
４歳			1	1
３歳			4	4
２歳			1	1
１歳			3	3
ベビー			4	4
計	4	9	13	26

26頭（内４ベビー）

●ハナレザル・オスグループ

事前調査時　　７頭のオスグループ　　九艘泊地区　　九艘泊－滝山線

2012年８月１日　３頭のオスグループ（7歳・4～5歳・3～4歳）　桧川　川内高校東

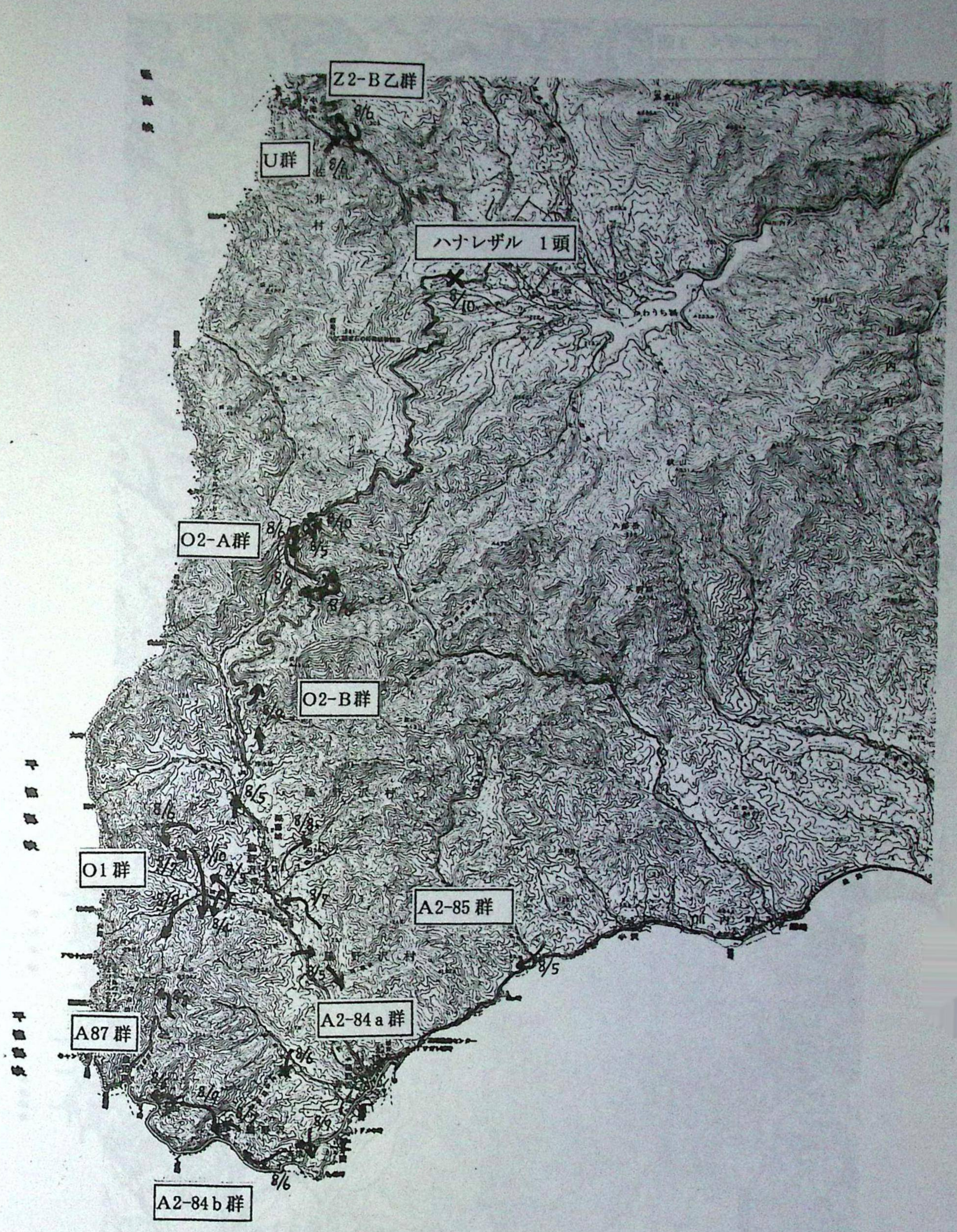
2012年８月９日　４頭のオスグループ　湯の川地区　カモシカライン

2012年８月10日　３頭のオスグループ（5歳2、4～5歳1）蛎崎集落東

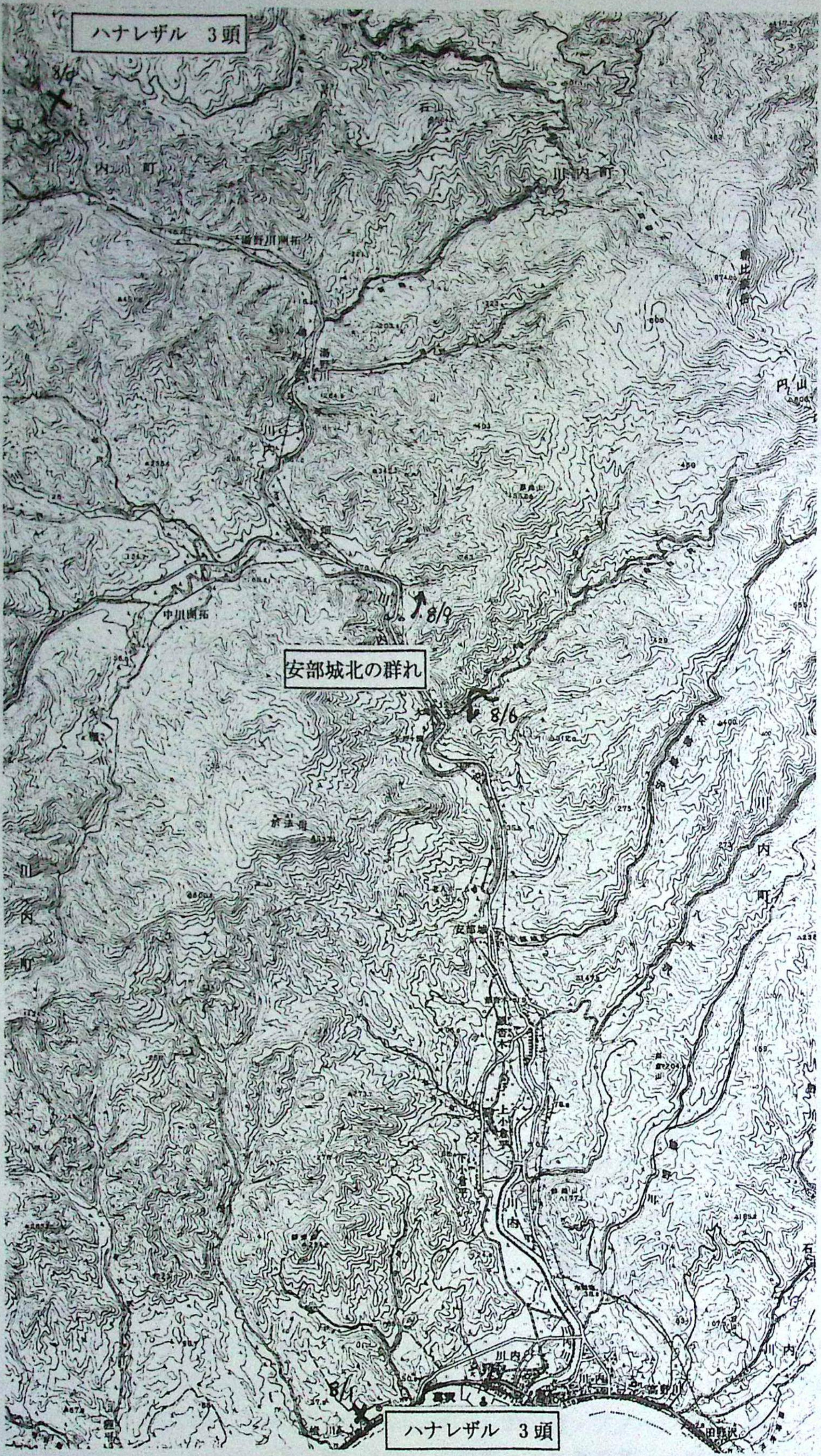
2012年８月10日　１頭のオトナ♂　　海峡ライン　野平地区ゲート付近

【　採食物　】

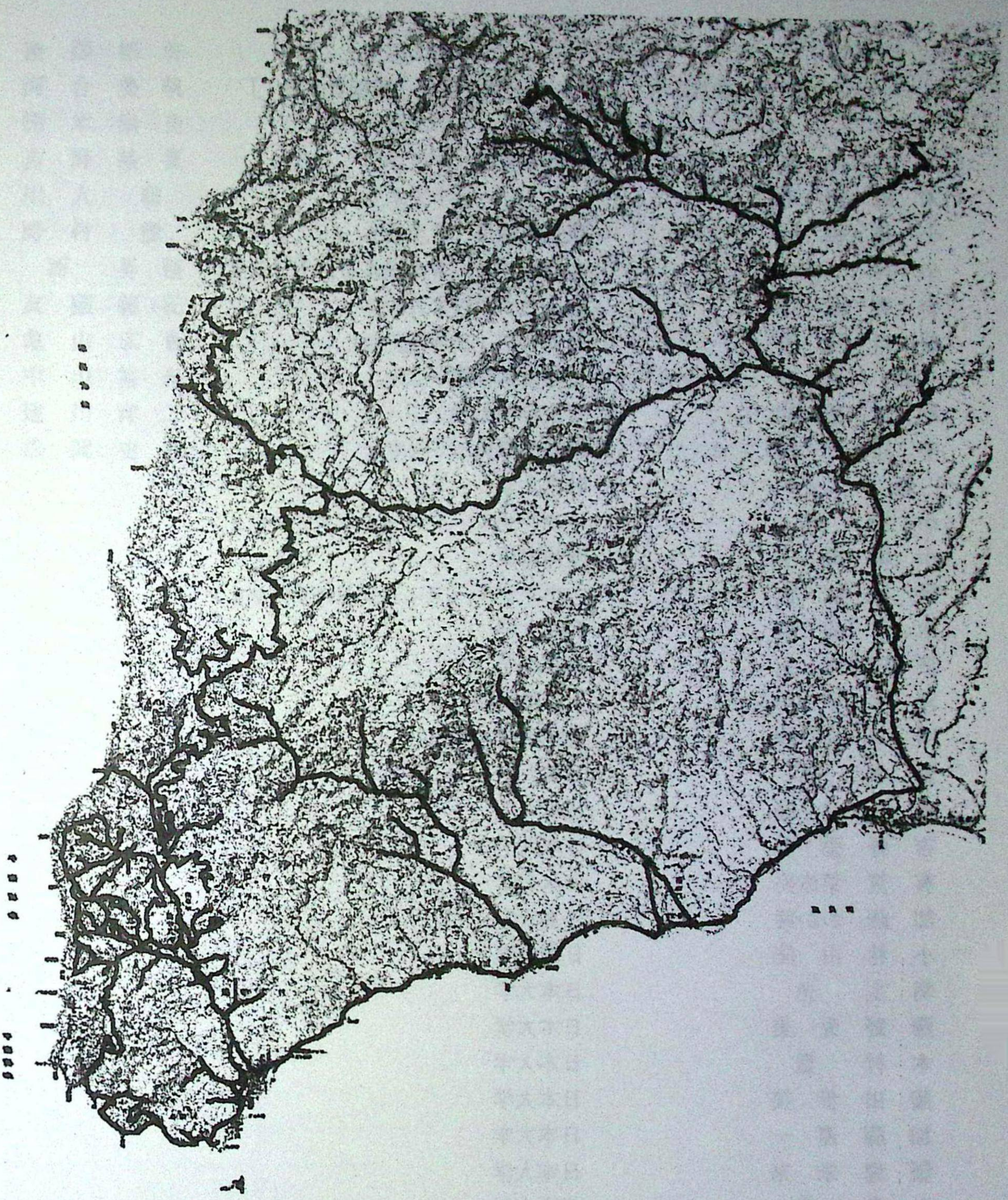
ソバの実・ササの葉（新芽）・ヘビイチゴの果実・エビガライチゴの果実・ナワシロイチゴの果実・クズの花と葉・ニガキの果実・イネ科ＳＰの種子・シロツメグサの葉と地下茎・レッドクローバーの葉・フキバッタ・トチの実・ツノハシバミの種子・オオハナウドの茎・エゾニュウの葉と茎・ホオノキの葉・ススキの茎・コブシの葉・ヨモギの葉・ノブドウの実・ソバナの花



2012 年　夏季ニホンザル調査　サル情報図　脇野沢地区



2012年　夏季ニホンザル調査　サル情報図　湯の川地区



夏季ニホンザル調査　全踏査ルート図

2. 事前調査

i） 建川氏提供の情報

建川洋二氏が個人的に観察調査されたニホンザル情報の中で、むつ市管内に生息するサル情報について提供協力していただいた。その結果を一覧にし報告する。

観察日時	群れ名	個体数	観察場所
2012－7－14 11：28～13：00	M２－B群 関連	18頭（内３ベビー）＋α	カモシカライン（県道46号線） 砥石川出合い付近
2012－７－17 11：20～14：50	M２－B群 関連	13頭（内２ベビー）＋α	カモシカライン佐井村との町村界の峠南
2012－7－18 13：05～15：15	安部城北の群れ	41頭（内６ベビー）＋α	湯の小川林道を北から南へ横断時
2012－７－27 12：28～14：20	安部城北の群れ	カウントできず	ふれあい温泉南　川内川左岸 県道46号線沿い
2012－8－4 13：05～13：50	M２－B群 関連	15頭（内２ベビー）＋α	新助林道
2012－8－4 10：50～12：35	安部城北の群れ	46頭（内８ベビー）＋α	鍵掛沢を北から南へ横断時

ii） 事前調査結果

◎　2012年11月19日　　A2－84b群　　牛の首岬　駐車場広場

56頭(内４ベビー)＋α

◎　2012年12月1日　　A87－a群　　九艘泊－滝山線自動車道路

55頭(内５ベビー)＋α

◎　2012年12月11日　　A87－b群　　蛸田地区西の海岸線の広場

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	3	8		11
ワカモノ	2	2		4
3～4歳			1	1
2～3歳			2	2
1～2歳			6	6
ベビー			2	2
計	5	10	11	**26**

26頭（内２ベビー）

3. 冬季ニホンザル調査結果

A） 大畑・薬研地区

◎ 調査の概要

2012年12月20日～12月26日の7日間、17名の調査員が参加した。 調査範囲は、むつ市大畑町・薬研地区(大畑川流域)・風間浦村下風呂地区までとした。

林道及び歩道の踏査を主体とし、直接観察に心がけ、発見時には追跡し、群れの個体数・構成の把握に努めた。また、足跡、フン等のフィールドサインの情報も調査結果に反映させた。

調査前半は晴れの日が多く、後半は低温で吹雪く日が続いた。積雪量もそれ程多くなく、大畑ー佐井線も川内方面との分岐まで車で入山できた。比較的調査の条件は良かった。

◎ 調査結果

●I2－A1群

12月20日 二枚橋小学校正門前付近で観察。目視26頭(内3ベビー)、足跡で27頭を確認。

12月21日 二枚橋地区方面の木野部峠で発見、その後、三右エ門林道へ入る。33頭(内5ベビー)を観察。

12月22日 木野部峠の国道279号線で観察。33頭(内5ベビー)を確認。

≪ 構成 ≫ 2012年12月22日 木野部峠の国道279号線

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	3	11	1	15
ワカモノ	1	1		2
4～5歳		2		2
3～4歳		1	2	3
2～3歳			3	3
1～2歳	1	1	1	3
ベビー	1		4	5
年齢不明				
計	6	16	11	33

33頭（内5ベビー）

●Ｉ2－A2群

12月20日　二枚橋桜ロード終点の畑周辺で観察。目視14頭(内1ベビー)を確認。

12月21日　二枚橋小学校西の林道で15頭分の足跡を発見。その後、道路工事現場で観察。15頭(内2ベビー)を直接観察。

《　構成　》　2012年12月21日　二枚橋小学校西の工事現場

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	1	5		6
ワカモノ	1		1	2
4～5歳			1	1
3～4歳			3	3
2～3歳		1		1
ベビー			2	2
計	2	6	7	15

15頭（内2ベビー）

●Ｉ2－B群

12月22日　畑尻地区西、国道279号沿いで発見。18頭(内3ベビー)＋αを確認。

12月23日　鳥谷場ノ上地区、国道279号線沿いで発見。26頭(内7ベビー)＋αを確認する。

《　構成　》　2012年12月23日　鳥谷場ノ上地区、国道279号線沿い

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	1	8		9
ワカモノ	1	1		2
4～5歳			1	1
3～4歳			2	2
2～3歳			2	2
1～2歳			3	3
ベビー			7	7
計	2	9	15	26

26頭（内7ベビー）＋α

●Ｉ2－C群

12月22日　三右衛門林道から入山し、佐藤ヶ平林道に出て、下山するルートをたどるがサル情報なし。

12月23日　小赤川林道、大赤川林道、木野部林道、鷹ノ巣沢林道を踏査した。鷹ノ巣沢でＩ2－A群と出会うが、Ｉ2－C群の情報なし。

12月24日　小赤川林道、大赤川林道を踏査したが、サル情報なし。

調査期間中にＩ２－Ｃ群の確認はできなかった。

●Ｋａ群

12月21日　下獅子林道を300m入った場所で群れ発見、23頭カウント。その後、下獅子林道出合い西の大畑－佐井線の道路でサルの群れの足跡を発見、22頭分を数える。この二つの群れが同一か、どうかは不明。

12月22日　近藤沢分岐付近ピーク277で21頭を目撃。50頭ぐらいはいるような感触を得た。前日の足跡の群れと判定。前日23頭カウントした群れは、下獅子沢と三太郎林道の踏査では確認なし。その間の新右衛門沢にいたのでは、と判断。大畑－佐井線の道路を横切る足跡はなし。

12月23日　新右衛門沢で39頭(内4ベビー)を確認。この群れは21日に23頭カウントした群れ。

12月24日　下獅子沢で11頭を目撃。前日の39頭の群れと判定。上及び下近藤沢も踏査をしたが、サル情報はなかった。22日の21頭の群れは仁助沢方面に移動しているものと推測される。

12月25日　大畑－佐井線の道路を川内方面への分岐近くまで踏査したが、サル情報はなかった。

上記報告の中で、2群確認しているが、群れの個体数から12月23日に新右衛門沢で39頭(内4ベビー)を確認した群れをＫａ群とし、もう一つの12月21日に足跡22頭分、翌22日に近藤沢で21頭カウントした群れを観察場所からM2－Ａ群関連の群れとする。ただし、群れの判定が全くの逆の可能性もある。

≪　構成　≫　　2012年12月23日　　新右衛門沢を右岸から左岸へ移動時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	4	6		10
2～3歳			6	6
1～2歳			4	4
ベビー			4	4
年齢不明			15	15
計	4	6	29	39

39頭（内4ベビー）＋α

●Ｋｏ－Ａ群（「イロハ」の群れ）

12月21日　大畑－佐井線の道路を踏査したが群れの確認なし。

12月22日　薬研温泉周辺、うぐい滝沢林道、釜ノ沢林道、白禿沢林道を踏査したが、群

れの確認はなかった。

12月23日　うぐい滝沢林道、釜ノ沢林道、小目名沢林道大畑町堂近、大西股沢林道、を踏査、釜ノ沢林道で2頭分のサルの足跡、♂1頭を目撃。また、大畑ー佐井線の道路の紅葉橋東を南から北へ移動する1頭のサルを目撃。それ以外、サルの群れの情報なし。

12月24日　小目名沢林道、正津川林道、大畑ー佐井線の道路の葉色沢周辺、釜ノ沢林道、曾古部川林道、ゴネ沢林道を踏査。葉色沢周辺で15頭分の足跡を発見。観察場所からKｏ－B群とする。

12月25日　うぐい滝沢林道、小目名沢林道、釜ノ沢林道、大畑ー佐井線烏沢出合いの手前まで、を踏査したがサルの群れの情報はなかった。聞き取り情報として、12月21日にうぐい滝沢林道でサルの群れがいたとのこと。

12月26日　関根橋と大畑高校間でサルの群れを発見。確認個体数は9頭。この群れを観察地点からKｏ－A群（「イロハ」の群れ）とする。

《　構成　》　　2012年12月26日　　関根橋と大畑高校間

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ		2	2	4
ワカモノ			2	2
3～4歳			2	2
ベビー			1	1
計		2	7	9

9頭（内1ベビー）＋α（＋αは多数）

●Kｏ－B群

12月21日　大畑ー佐井線の道路を踏査したが群れの確認なし。

12月22日　薬研温泉周辺、うぐい滝沢林道、釜ノ沢林道、白禿沢林道を踏査したが、群れの確認はなかった。

12月23日　うぐい滝沢林道、釜ノ沢林道、小目名沢林道大畑町堂近、大西股沢林道、を踏査、釜ノ沢林道で2頭分のサルの足跡、♂1頭を目撃。また、大畑ー佐井線の道路の紅葉橋東を南から北へ移動する1頭のサルを目撃。それ以外、サルの群れの情報なし。

12月24日　小目名沢林道、正津川林道、大畑ー佐井線の道路の葉色沢周辺、釜ノ沢林道、曾古部川林道、ゴネ沢林道を踏査。葉色沢周辺で15頭分の足跡を発見。観察場所からKｏ－B群とする。

12月25日　白禿沢林道の出合い付近で20頭を確認。

≪ 構成 ≫　　2012年12月25日　　白禿沢林道の出合い

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	1	4		5
4～5歳	1	1		2
3～4歳			2	2
2～3歳			1	1
1～2歳			4	4
ベビー			2	2
年齢不明			4	4
計	2	5	13	20

20頭（内2ベビー）＋α

●Ｓ群

Ｓ群については、今回調査できなかった。

Ｓ群の確認はとれなかった。（未調査）

●M2－A群関連

12月21日　下獅子林道を300m入った場所で群れ発見、23頭カウント。その後、下獅子林道出合い西の大畑－佐井線の道路でサルの群れの足跡を発見、22頭分を数える。この二つの群れが同一か、どうかは不明。

12月22日　近藤沢分岐付近ピーク277で21頭を目撃。50頭ぐらいはいるような感触を得た。前日の足跡の群れと判定。前日23頭カウントした群れは、下獅子沢と三太郎林道の踏査では確認なし。その間の新右衛門沢にいたのでは、との判断。大畑－佐井線の道路を横切る足跡はなし。上狄沢、長次郎川、囲沢を踏査、サル情報なし。

12月23日　新右衛門沢で39頭(内4ベビー)を確認。この群れは21日に23頭カウントした群れ。

12月24日　下獅子沢で11頭を目撃。前日の39頭の群れと判定。上及び下近藤沢も踏査をしたが、サル情報はなかった。22日の21頭の群れは仁助沢方面に移動しているものと推測される。

12月25日　大畑－佐井線の道路を川内方面への分岐近くまで踏査したが、サル情報はなかった。

上記報告の中で、2群確認しているが、群れの個体数から12月23日に新右衛門沢で39頭(内4ベビー)を確認した群れをＫａ群とし、もう一つの12月21日に足跡22頭分、翌22日に近藤沢で21頭カウントした群れを観察場所からM2－A群関連の群れと

する。ただし、群れの判定が全くの逆の可能性もある。

構成は取れなかったが、21頭＋α
50頭前後の可能性大

●Ｉ３－Ａ群

今回の調査でＩ３－Ａ群と断定できる群れの確認はとれなかった。

Ｉ３－Ａ群は未確認

※ 大畑川流域、薬研渓流に生息するサルの群れで、今までＫｏ－Ａ群の「イロハ」に電波発信機が装着され、群れの同定に役立っていたが、「イロハ」の電波発信機の電池の寿命切れなのか、発信しておらず、この流域に電波発信機を装着したサルがいなくなったことになる。今回の調査で、４つの群れの確認はできたものの、これまでの個体数や生息場所から推測しているだけで、群れの同定に確実な根拠がなくなっている。

●ハナレザル

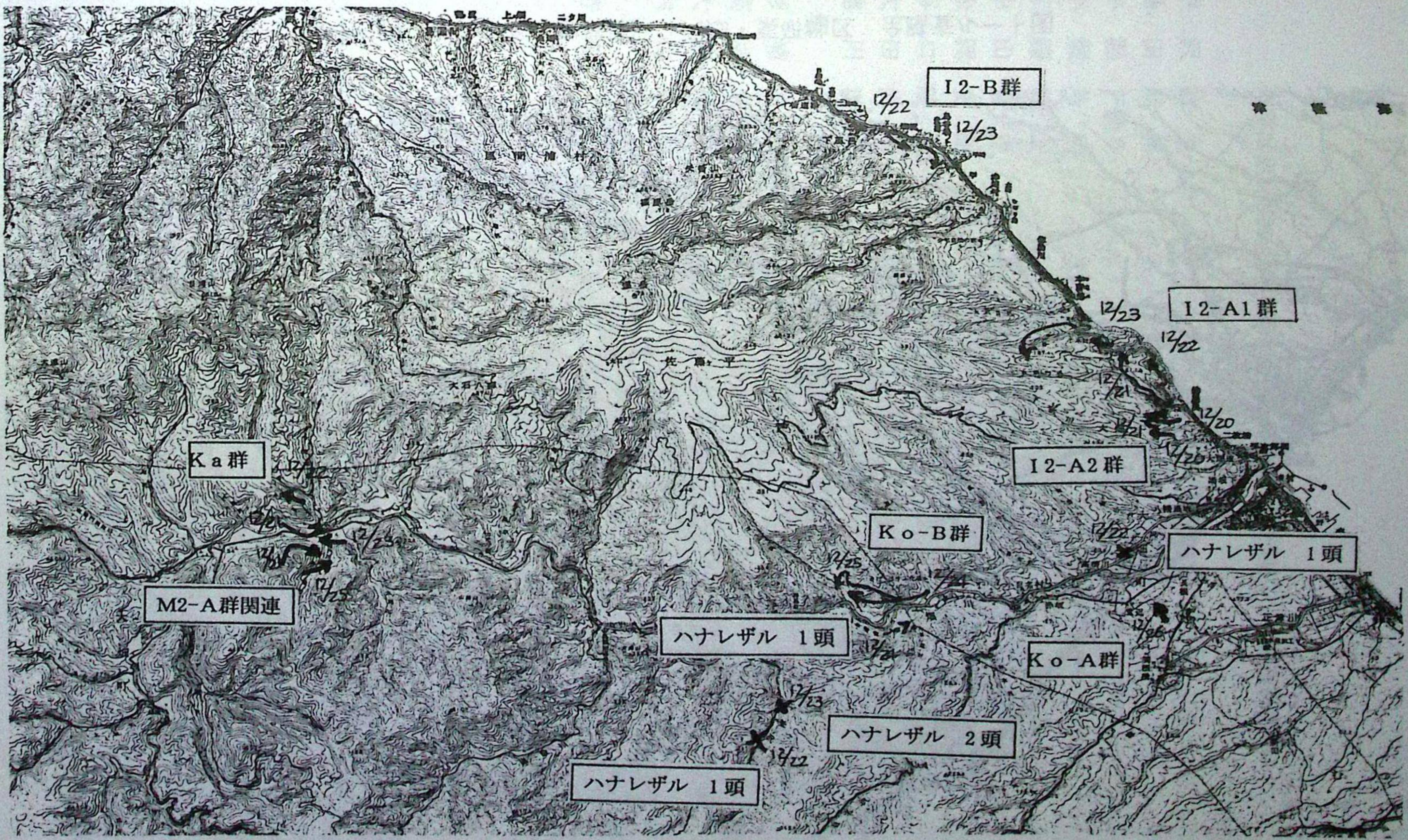
2012年12月22日　Ａ♂1頭　金山橋

2012年12月22日　Ａ不明１頭分の足跡　釜ノ沢林道　滑川橋北50m

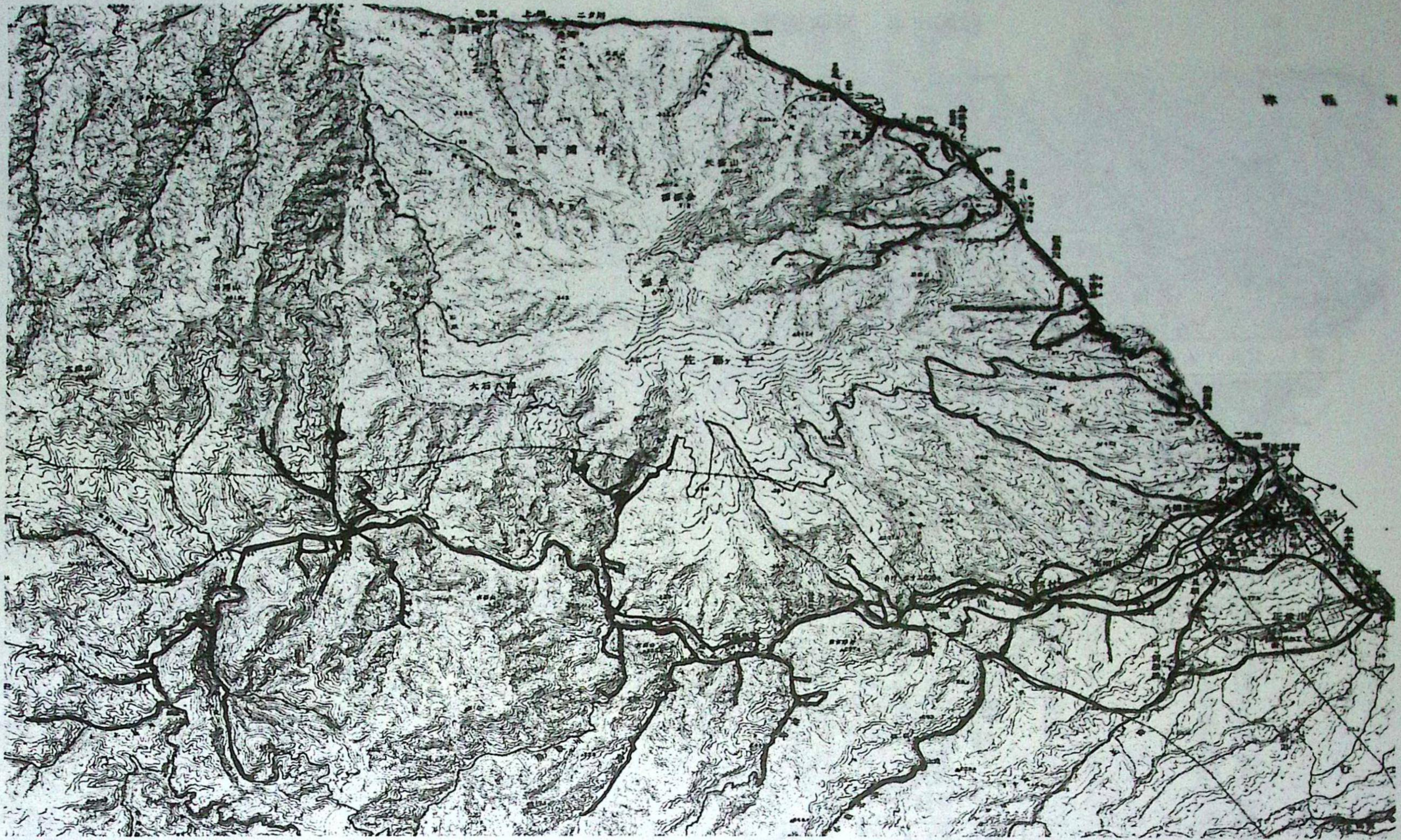
2012年12月23日　足跡２頭分　目視Ａ♂1頭　釜ノ沢林道　滑川沢付近
前日22日の１頭分の足跡と同一と思われる。

2012年12月23日　Ａ♂1頭　ゴネ沢と薬色沢の間
Ｋｏ－Ｂ群が近くにいたため、群れの周辺のサルと判定。

2012年12月24日　Ａ不明１頭分の足跡　曾古部林道



冬季ニホンザル生息実態調査　大畑・薬研地区　サル情報



冬季ニホンザル生息実態調査　大畑・薬研地区　全踏査ルート図

B) 脇野沢・湯の川地区

◎ 調査の概要

2012年12月25日～12月29日の5日間、51名の調査員が参加した。調査範囲は、むつ市脇野沢全域・佐井村牛滝地区・むつ市川内町川内ダム周辺・むつ市川内町川内川流域・むつ市川内町蛎崎地区・むつ市川内町男川・宿野部川流域とした。

林道及び歩道の踏査を主体とし、直接観察に心がけ、発見時には追跡し、群れの個体数・構成の把握に努めた。また、足跡、フン等のフィールドサインの情報も調査結果に反映させた。

調査前半は低温で吹雪く日が続いたが、後半は天候が荒れず、まずまずであった。ただ、海峡ラインを北上する踏査は、道路工事をしていたことなどで実施できなかった。

◎ 調査結果

● A2 - 84a 群

12月26日　瀬野黒岩の中山間電柵畑周辺で観察。14頭を目視したが、まだまだ周辺にいる模様。

12月27日　瀬野黒岩の中山間電柵畑周辺で観察。電気柵内でシロツメグサを採食している時に75頭（内10ベビー）をカウント。

12月28日　瀬野黒岩の中山間電柵畑周辺で観察。電気柵内でシロツメグサを採食している時に61頭（内3ベビー）をカウント。

12月29日　瀬野黒岩の中山間電柵畑周辺で観察。電気柵内でシロツメグサを採食している時に77頭をカウント。

≪　構成　≫　　2012年12月27日　　瀬野黒岩の中山間電柵畑周辺

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	3	19		22
ワカモノ	1		2	3
4～5歳	1		12	13
3～4歳			2	2
1～3歳			25	25
ベビー			10	10
年齢不明			2	2
計	5	19	53	33

77頭（内10ベビー）＋α

● A2 - 84b 群

12 月 27 日　牛の首岬の中で観察。4 頭は確認したが、まだまだいる模様。

12 月 28 日　牛の首岬内で発見、県道 175 号の寄浪地区側を横断時に 49 頭（内 2 ベビー）をフルカウント。

≪　構成　≫　2012 年 12 月 28 日　牛の首岬から寄浪地区へ県道 175 号横断時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	6	12	1	19
ワカモノ	1	3	3	7
3～4 歳	1	2	11	14
2～3 歳			5	5
1～2 歳			2	2
ベビー			2	2
計	8	17	24	49

49 頭（内 2 ベビー）

● A2 - 84c 群

今回の調査期間中に A2 - 84c 群の確認はとれなかった。一年間を通した観察に委ねたい。

A2 - 84c 群は未確認

● A2 - 85 群

12 月 27 日　小沢地区薬師堂東から中山間の電気柵の背後を東へ移動。75 頭を確認。

12 月 28 日　小沢地区殿崎の中山間の電気柵背後から東へ移動。80 頭（内 13 ベビー）カウント。

12 月 29 日　蛎崎小学校背後、錦帯城公園周辺の森で観察。

≪　構成　≫　2012 年 12 月 28 日　小沢地区殿崎の沢を西から東へ移動時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	8	16		24
ワカモノ	3	2		5
3～4 歳		3	2	5
2～3 歳			2	2
1～3 歳			5	5
ベビー			13	13
年齢不明			26	26
計	11	21	48	80

80 頭（内 13 ベビー）

年齢・性別不明が 26 頭と多く、構成は十分にとれなかった。オトナならびにワカモノの♂が多く、周辺にいた♂グループが加わっているものと思われる。

● A87 群

12 月 25 日　九艘泊小学校東の森で観察。25 頭ぐらいは確認できたが、まだまだいる。九艘泊川の左岸を北上する。

12 月 26 日　九艘泊沢のサル橋北の九艘泊－滝山線の右岸でサルを観察。20 頭＋ α を数えるが、フルカウントできず。

12 月 27 日　九艘泊－滝山線を中心に踏査したが、サルの情報なし。

12 月 28 日　九艘泊沢の右岸でサル発見、追跡。貝崎の海岸で北海岬へ移動するグループと貝崎を西へ移動するグループに分かれる。

A87 群は、調査員が通年して観察している。個体識別も完璧に行われていることから、その情報を調査結果に反映させる。また、A87 群はここ一年サブグルーピングしていることが多く、近々分裂の可能性が高い。

● O 群関連

O 群はこれまでの調査で O1 群、O 2 －A 群、O2－B 群の 3 群を確認している。今回の調査でも群れの確認はとれているが、観察した群れの同定が難しく、O 群関連として報告する。その過程でこれまでの個体数の状況や観察地点などから、3 群を判定する。

12 月 25 日　海峡ラインの石碑まで、蛎崎越林道、源藤城林道、面木林道、細間林道、細間牧場、青石林道、穴間林道、九艘泊－滝山線、下細間林道と踏査。下細間林道と九艘泊－滝山線の穴間分岐手前で、南及び南西へ移動する複数頭の足跡を発見。サルの姿は見なかった。

12 月 26 日　武士泊林道、蛎崎越林道、源藤城林道、面木林道、細間林道、細間牧場、青石林道、穴間林道、九艘泊－滝山線、下細間林道、二の渡沢と踏査。二の渡沢の中で北から南へ移動する 3～4 頭の足跡。13:00 面木林道の細間上牧場の北の林道でサルの鳴き声と北～南へ移動する 9 頭の足跡。12:30～13:15 青石林道で 19 頭（内 1 ベビー）北～南へ移動するところを観察。3 情報は、それぞれ別の群れならびにオスグループと推測される。

12 月 27 日　武士泊林道、武士泊海岸、蛎崎越林道、源藤城林道、面木林道、細間林道、青石林道、穴間林道、九艘泊－滝山線、下細間林道、二の渡沢と踏査。青石と穴間の間のスギ間伐地で 11 頭(内 2 ベビー)を確認。前日の 19 頭と同一。武士泊林道で古いフン、食痕を発見。サルの姿はなし。

12 月 28 日　面木林道、細間林道、細間牧場、青石林道、穴間林道、九艘泊－滝山線、下

細間林道と踏査。細間上の牧場でサル発見その後、細間下の牧場まで移動する間に22頭（内2ベビー）を確認。移動の方向などから26日の面木林道の9頭の足跡の群れと推測。九艘泊－滝山線の穴間分岐東で道路を横断する1頭分の足跡と14:50鳴き声。このサル情報近辺に前日の19頭の群れがいるものと推測。

12月29日　海峡ラインの石碑まで、武士泊林道、蛎崎越林道、源藤城林道、面木林道、細間林道、青石林道、穴間林道、九艘泊－滝山線、下細間林道と踏査。青石林道ならびに穴間林道を北～南へ移動する19頭の足跡を発見、その後、9:37～13:50ガンケ山北の森で数頭のサルを目撃、鳴き声も数回聞く。26日から追跡している群れと判定。8:15～14:20細間下の牧場でサルを観察、その後追跡、青石海岸へ降りることを確認する。サルの数は最大5頭と少なかった。これが28日に22頭観察した群れと判定。また、武士泊海岸への林道で南から北へ移動する18頭分（大14、小4）の足跡を確認。

以上の調査結果から、サルの群れ3群の確認はとれた。26日に青石林道で観察した19頭＋α、28日に細間上の牧場から下の牧場へ移動した22頭（内2ベビー）＋α、29日武士泊海岸への林道で確認した18頭分の足跡の3群である。また、26日に二の渡沢を南下する3～4頭の足跡も確認、少数の♂グループの可能性が高い。

今回の発見場所から、26日に青石林道で観察した19頭＋αをO1群、28日に細間上の牧場から下の牧場へ移動した22頭（内2ベビー）＋αをO2-A群、29日武士泊海岸への林道で確認した18頭分の足跡をO2-B群とする。ただ、O1群は60頭を越える群れであったことから、O1群が分裂し、今回の19頭＋αの群れと22頭＋αの群れに分裂した可能性もあることを明記したい。その際、18頭の足跡がO2-A群と推測され、O2-B群は確認できなかったことになる。

◎　O1群

《　構成　》　2012年12月26日　　青石林道を北～南へ移動時

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ			4	4
コザル			6	6
ベビー			1	1
年齢不明			8	8
計			19	19

19頭（内1ベビー）＋α

◎ O2 - A群

22頭（内2ベビー）＋α　　2012年12月28日
細間上牧場から細間下牧場への移動時

◎ O2 - B群

18頭＋α【足跡】　　2012年12月29日
武士泊海岸への林道

● B群およびU群

海峡ラインを北上する踏査が、道路工事や積雪量などで実施できなかった。B群およびU群は未調査となった。

B群およびU群は未調査

● 男川群

12月26日　男川林道松山沢出合い西まで踏査、サル情報なし。

12月27日　男川林道滑川沢出合いまでと小川平沢を踏査、サル情報なし。

12月28日　男川林道板家戸沢出合いまでと小川平沢を踏査、古い食痕は確認したが、それ以外は情報なし。

12月29日　男川林道滑川沢出合いまでと宿野部川西又沢林道と金八沢林道を踏査。金八沢林道で 10：41 サルの鳴き声を聞く。林道を西から東へ横断する 40 頭分足跡を確認。

40頭＋α【足跡】　　2012年12月29日
金八沢林道を西から東へ移動する

● 安部城北の群れおよびM2 - B群関連の群れ

12月27日　川内川沿いの県道 46 号線ゲートまでを車でのパトロールと名曲沢林道の踏査。川内ダム方面も車でのパトロール。川内開拓あたりの道路沿いのヤマグワに食痕あり。川内ダム西で 6 頭を目撃。ただし、これは前日に 35 頭カウントしたZ2－B乙群。

12月28日　川内川沿いの県道 46 号線ゲートまでと、新助林道、湯の小川林道、和白沢林道を踏査。新助林道入り口近くで新しい複数頭の北上する足跡、その後、名目川との境の尾根で 3 頭のサルを目撃、鳴き声からまだまだいる模様。観察地点からM2 - B群関連の群れと判断。和白沢林道の入り口近くで南下する最大 9 頭分の足跡を確認。観察地点からこれが安部城北の群れと判断する。

12月29日　川内川沿いの県道 46 号線ゲートを越えピーク 568 南までと、和白沢南ビー

九 312 付近までを踏査。28 日の 3 頭のサルは、名目川林道で 11：49 に鳴き声を聞き、13：13 に 9 頭を目撃。名目川林道を横断する 33 頭の足跡を確認する。また、前日の和白沢林道の群れは、8 頭の足跡を確認し、10：57 に 2 頭を目撃。和白沢南の斜面ピーク 312 付近に移動する。

◎安部城北の群れ

9 頭＋α【足跡】　2012 年 12 月 28 日
和白沢林道入り口付近

◎M2 - B 群関連の群れ

33 頭＋α【足跡】　2012 年 12 月 29 日
名目川林道を南から北へ移動する足跡

●Z2－B 乙群

12 月 26 日　川内ダム西で群れを発見。ヤマグワに鈴なりになつて食べていた。35 頭をフルカウント。

12 月 27 日　前日と同じ場所で 6 頭を目撃。

≪　構成　≫　2012 年 12 月 26 日　川内ダム西の道路わき

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	3	17		20
ワカモノ	3			3
4 歳			2	2
3 歳			1	1
2 歳			1	1
1 歳			4	4
ベビー			4	4
計	6	17	12	35

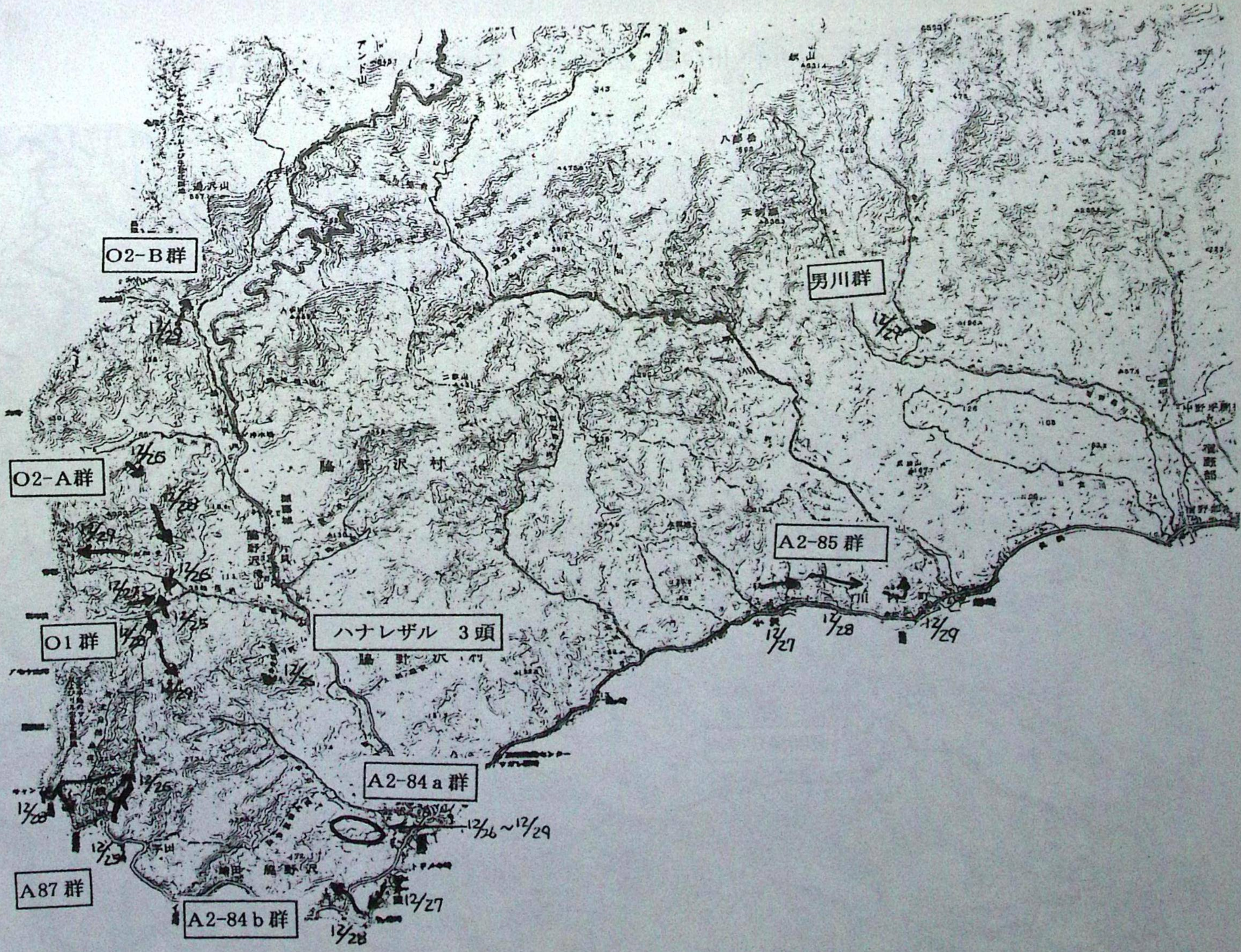
35 頭（内 4 ベビー）

●　ハナレザル　♂グループ

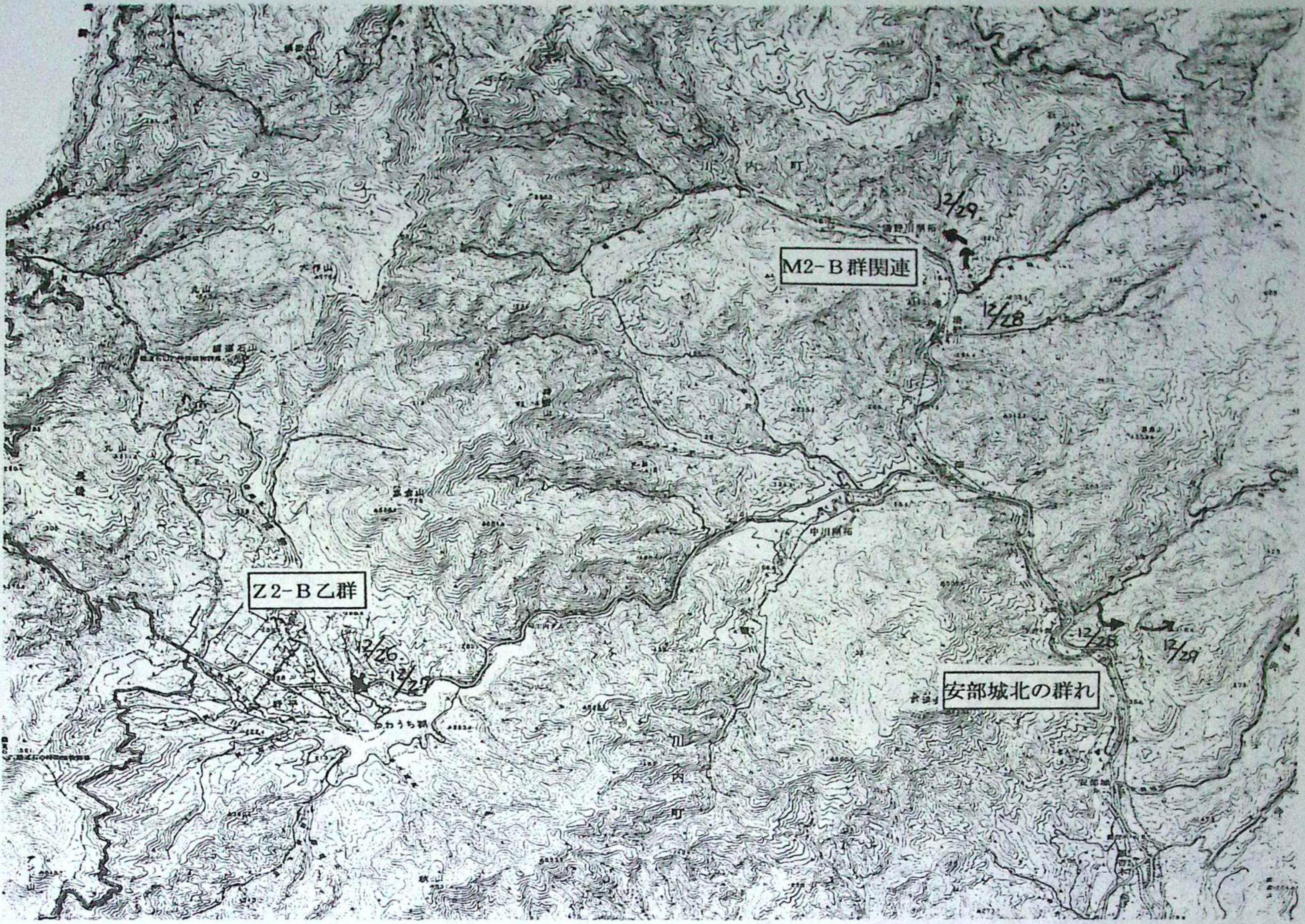
2012 年 12 月 26 日　二の渡沢で北から南へ移動する 3～4 頭の足跡

《 採食物 》

シロツメグサの地下茎と葉　　キノコＳＰ　ヤマグワの冬芽と樹皮、ササの脇芽と葉、クズの種子と樹皮、アオダモの冬芽と樹皮、ホオノキの樹皮、ミズナラの樹皮と実、サルナシの樹皮、コシアブラの樹皮と冬芽、ガマズミの冬芽、トチの実、アカマツの樹皮と種子（マツボックリ）、ヤマハゼの種子、ススキの茎、カワラダケ、地衣類、イタヤカエデの樹皮、長ねぎ、ダイコン、サクラの樹皮、ヤドリギの枝、柿の実、ツルアジサイの冬芽

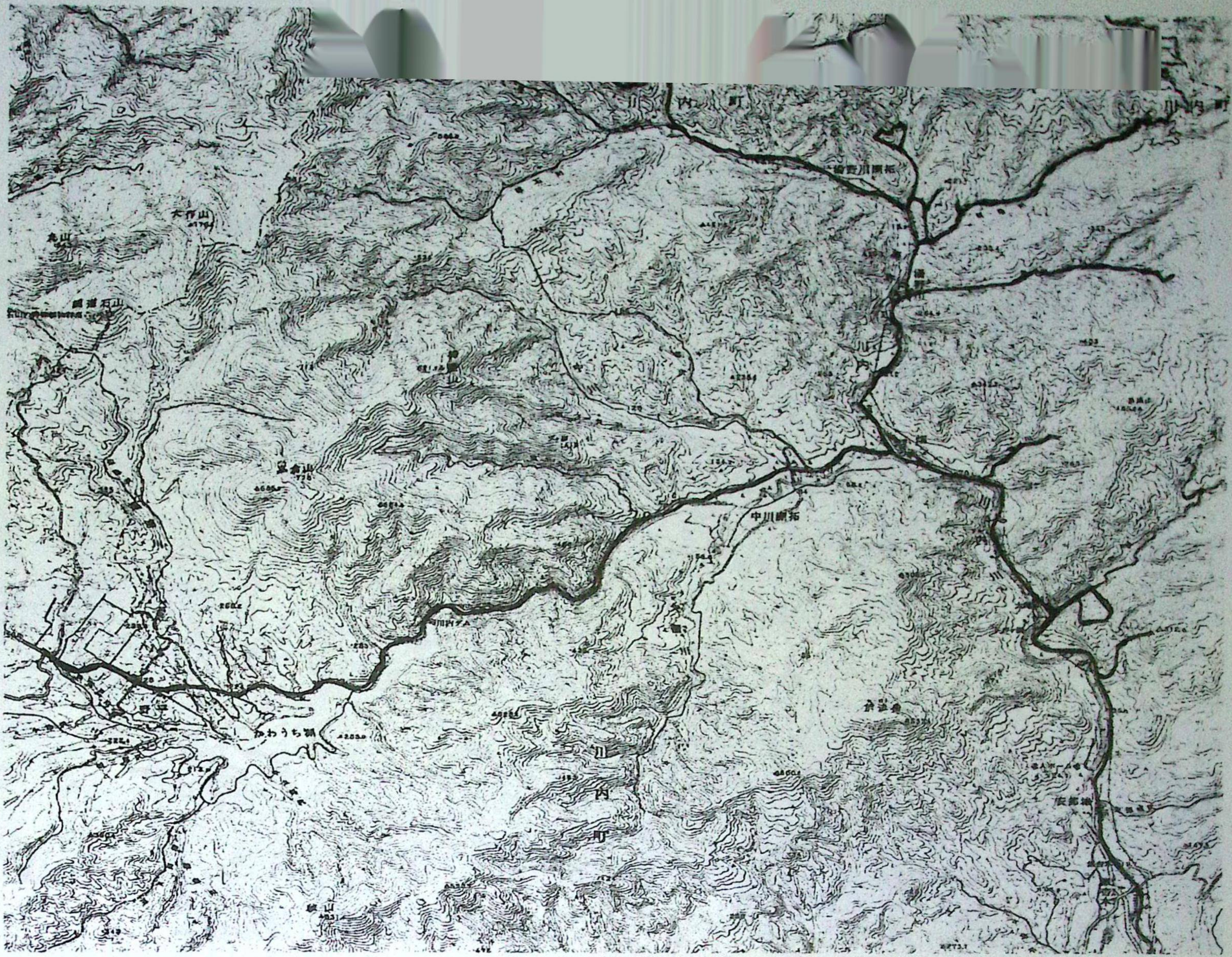


2012 年冬季ニホンザル調査　脇野沢地区サル情報



2012年冬季ニホンザル調査　川内地区（湯の川・川内ダム）サル情報

2012年冬季ニホンザル調査　脇野沢地区　全踏査ルート図



2012 年冬季ニホンザル調査　川内地区（湯の川・川内ダム）全踏査ルート図

4. 補足調査

A2−84 c 群　　2013 年 1 月 31 日　　寄浪地区白岩の海岸線斜面

≪ 構成 ≫

	オス（♂）	メス（♀）	性不明	計
オトナ	1	3		4
3～4 歳			1	1
2～3 歳			3	3
1～2 歳			2	2
年齢不明			1	1
計	1	3	7	11

11 頭

5. まとめ

むつ市管内のニホンザル生息実態調査を集積分析し、2012 年度むつ市管内のニホンザル生息実態調査の結果とする。

	群れ名	個体数	調査日	調査地	2011 年個体数
1)	A2-84a 群	77 頭＋α (10B)	2012-12-27	瀬野黒岩　中山間電気柵周辺	96 頭（10B）
2)	A2-84b 群	49 頭（2B）	2012-12-28	牛の首岬　寄浪地区	60 頭（9B）
3)	A2-84c 群	11 頭（B なし）	2013-1-13	寄浪地区　白岩海岸線	14 頭（3B）
4)	A2-85 群	80 頭（13B）	2012-12-28	小沢地区　殿崎	87 頭＋α (20B)
5)	A87 群	74 頭＋α (7B)	2012-8-6	芋田地区　砂防ダム	73 頭（16B）
6}	O1 群	57 頭＋α (11B)	2012-8-10	細間林道	65 頭（6B）
7)	O2-A 群	39 頭＋α (8B)	2012-8-8	海峡ライン　石碑周辺	35 頭＋α (6B)
8)	O2-B 群	25 頭（3B）	2012-8-9	海峡ライン　M字カーブ付近	10 頭＋α
9)	B群	≪36 頭＋α≫	2005-8-4	長右衛門林道	未確認
10)	U群	52 頭＋α (13B)	2012-8-6	牛滝集落への道路	73 頭＋α (15B)
11)	男川群	40 頭＋α【足跡】	2012-12-29	宿野部川　金八林道	20 頭＋α【足跡】
12)	M2-B 群関連	33 頭＋α【足跡】	2012-12-29	目名川林道	24 頭＋α (3B)
13)	安部城北の群れ	46 頭＋α (8B)	2012-8-4	鍵掛沢	33 頭＋α (4B)
14)	Z2-B2 群	35 頭（4B)	2012-12-26	川内ダム西の道路沿い	18 頭（4B)
15)	I2-A1 群	33 頭　(5B)	2012-12-22	木野部峠　国道 279 号線	38 頭　(4B)
16)	I2-A2 群	15 頭　(2B)	2012-12-21	二枚橋小学校西	14 頭　(2B）
17)	I2-B 群	26 頭＋α (7B)	2012-12-23	鳥谷場ノ上地区　国道 279 号線沿い	34 頭＋α (4B)
18)	I2-C 群	≪35 頭＋α≫	2009-12-24	大畑町　木野部峠	未確認

19)	Ka 群	39 頭＋α (4B)	2012-12-23	新右衛門沢	54 頭（7B）
20)	Ko-A 群	9 頭＋α (1B)	2012-12-26	関根橋地区と大畑高校間	44 頭＋α (5B)
21)	Ko-B 群	20 頭＋α (2B)	2012-12-23	白禿沢林道の出合い	26 頭＋α (2B)
22)	M2-A1 群	21 頭＋α 群れの同定はできず	2012-12-22	近藤沢	16 頭＋α【足跡】と 26 頭＋α【足跡】を確認したが群れの同定できず
23)	M2-A2 群				
24)	M2-A3 群				
25)	I3-A 群	≪56 頭＋α≫	2011-12-25	県道大畑－佐井線 白禿沢出合い	未確認
26)	S 群	≪50 頭＋α≫【足跡】	2007-12-25	大畑町　新田	未確認

※ A2-84a 群、A2-84b 群、A2-85 群は、個体数調整の対象群であり、捕獲駆除が進んでいる。個体数に変動が見られる群れである。A2-84a 群は、生息域を松ヶ崎沢まで東進、それが影響してか、どうかは不明だが、A2-85 群は宿野部地区の西の畑周辺まで東進している。

※ A2-84c 群は、電波発信機が付いておらず、群れの個体数も少ないことから、夏季ならびに冬季調査期間中に確認することが難しい。ただ、年間を通して見れば、どうにか構成も取れ、継続調査が可能となっている。

※ A87 群は、2012 年夏ごろより度々サブグルーピングしており、群れの分裂の可能性が高い群れである。

※ O 群関連は、O1 群が分裂しているかもしれないことが、冬季調査で明らかになった。その実態は今後の調査に委ねたい。

※ B 群については、近年確認がとれていない。男川群の母群ではないか、と推定されており、今後川内ダムの南側地域での群れの発見で、B 群の分裂が確認される。その真意がわかるまで、調査で確認が取れていないものの、このまま表記を続ける。

※ U 群は、2011 年調査で 70 頭を超えることから分裂の可能性が高い。ただ、年間を通して、U 群の確認が乏しく、また。近隣に Z2-B 群関連の群れもいることから分裂後の状況の把握が難しい。U 群の生息域の牛滝地区は、佐井村の管内になるが、調査の歴史においてU群は南西域の群れとして扱っていたため、むつ市の群れとしている。

※ Z2-B2 群は、Z群出身の群れであることから佐井地区の群れとしていたが、近年むつ市川内町野平地区へ頻繁に出没し農作物被害を出している。猿害対策上、むつ市でも扱っていることからむつ市の群れとした。

※ 男川群は、足跡などでかろうじて群れの継続調査ができている。宿野部川上流部まで生息域を広げている。

※ 安部城北の群れは、50 頭近くになっており、分裂する可能性がある。川内町のブドウ園に最も近い群れであることから、動向を知るためにも電波発信機の装着が望まれる群れである。

※ I2-A1 群、I2-A2 群、I2-B 群は、個体数調整の対象群であり、個体数の変動が見られる群れである。I2-A2 群は、去年の調査ですでに分裂していたようで、今年から新たな群れとして認定した。I2-A1 群・I2-B 群は、生息域が風間浦村と重複しているがむつ市で扱う群れとした。

※ I2-C 群は、電波発信機が付いておらず、なかなか姿が見られない。

※ Ka 群、Ko-A 群、Ko-B 群は、 Ko-A 群の「イロハ」についていた電波発信機が電波を発しておらず、群れの確認及び同定が難しくなっている。それに併せて、Ka 群、Ko-B 群も群れの確認はできていても、同定が難しくなっている。電波発信機の装着が望まれる。

※ 薬研地区の最深部に生息する M2-A 群関連の群れは、調査が難しく、確認をとることも困難な状況である。かかんに攻めて調査を進めたい群れである。

※ S 群は近年、情報はあるものの確認がとれていない群れである。当初 50 頭を越える個体数であったことから、すでに分裂している可能性が高い。

〔 ハナレザル・オスグループ 〕

2012 年 12 月 20 日～12 月 29 日間の本調査期間中に確認したハナレザル・オスグループのみについて報告する。

2012 年 12 月 22 日　　A♂1 頭　　金山橋

2012 年 12 月 23 日　　足跡 2 頭分　目視 A♂1 頭　　釜ノ沢林道　滑川沢付近

2012 年 12 月 24 日　　A 不明 1 頭分の足跡　　曽古部林道

2012 年 12 月 26 日　　二の渡沢で北から南へ移動する 3～4 頭の足跡

むつ市管内のニホンザル

(ハナレザル・オスグループを含まず)

《 脇野沢・湯の川地区 》

群れ数　14 群

個体数　654 頭＋α　(内 79 ベビー)

※　むつ市脇野沢七引地区の野猿公苑のサル(A1 群)は含まない。

《 大畑・薬研地区 》

群れ数　12 群

個体数　304 頭＋α　(内 21 ベビー)

【 むつ市全域 】

群れ数　26 群

個体数　958 頭＋α　(内 100 ベビー)

※　むつ市脇野沢七引地区の野猿公苑のサル(A1 群)は含まない。

※　2012 年秋から 2013 年 3 月にかけて、青森県の特定鳥獣保護管理計画に基づき、A2-84a 群、A2-84b 群、A2-85 群、I2-A1 群、I2-A2 群、I2-B 群、Z2-B 群関連を対象に捕獲(駆除)作業が実施されている。各群れの捕獲数については、情報を得次第報告する。

謝　辞

2012 年度の下北半島のニホンザル調査(むつ市管内)は、むつ市からの委託事業として実施した。また、中山氏が京都大学霊長類研究所の共同利用・共同研究の科研費の基で実施した A87 群のデータを提供していただいた。

資　　料

資料　1　　下北A群　　年表

資料　1　　下北A群　　年表

1960年以前	下北半島南西域の海岸線で十数頭のサルを見ていた。（漁師からの聞き取り）
1960年S35	脇野沢村九艘泊地区の畑にサルが姿を現わす。 この年から下北半島南西域のサルの生態調査が開始される。
1961年S36	サルの農作物被害総額が30万円にのぼる。
1962年S37	「あしの会」によるサル調査。 九艘泊地区の畑荒らしが頻発化する。九艘泊婦人会から村へ猿害防止の陳情。
1963年S38	3月　京都大学の調査で15頭を確認。遊動域が穴間海岸にちなみ下北A群と命名。 戸川幸夫氏の進言により、村は九艘泊婦人会にサルの餌付けを依頼。 京都大学から日本自然保護協会を通じて国へ天然記念物指定の意見書を提出。
1964年S39	下北A群の餌付け完成。リーダー「オソレ」。 サルの餌付けに九艘泊小・中学校も協力。地元に「北限の野猿を守る会」を結成。 文化庁、村へ北限のサルの保護増殖費の援助開始。県も山林保護として餌代の援助。 下北半島南西部のサルの生息地一帯を20年間鳥獣保護区に設定。
1965年S40	日本モンキーセンター東滋氏とコフォード氏を中心に日米科学協力による下北A群の長期調査を開始（3年間）。 餌場を九艘泊地区から貝崎地区へ移動。研究舎を建設。 下北A群22頭の個体識別完成。 村、仏ヶ浦を中心とした半島南西部の観光開発を志向。
1966年S41	野犬がサルを脅かす。 九艘泊地区まで海岸線に自動車道路が完成。
1967年S42	九艘泊地区の畑荒らしが再び問題となる。九艘泊婦人会から村へ被害防止の陳情。 下北A群、リーダーが「オソレ」から「マス」へ交代。 村、観光開発へ力を入れる。観光客が漸増。観光船の就航。
1968年S43	村、九艘泊地区へ被害補償を始める。サルの専従監視員1名採用。 日本モンキーセンターが村に科学的な下北A群の生態管理と自然教育的利用を進言。 厚生省、下北半島を国定公園に指定。
1969年S44	下北A群の周辺にハナレザル出没。
1970年S45	農作物被害が九艘泊地区から芋田地区へ拡大。 下北A群の管理が、村の産業課から教育委員会へ変わる。 村、日本モンキーセンターへ対応策を相談、野外博物館構想に基づく解決を提案される。 日本モンキーセンターによる下北A群の保護のための調査が実施される。 下北半島北西部のサルの生息地に除草剤が大量に散布される。 「下北半島のサルとその生息地」が国の天然記念物として公示される。

1971 年 S 46	北海岬に森林遊歩道と展望台が完成。 文化庁より指導監視員が現地視察。
1972 年 S 47	餌保存用定温庫完成。標識等設置。九艘泊駐車場着工。 「天然記念物保護対策連絡協議会」が開催される。県、自然保護課、教育委員会出席
1973 年 S 48	野猿観察舎完成。餌保存用定温屋上倉庫完成。 「北限のサルの保護とその管理および活用について」の協議会が開催される。
1974 年 S 49	国際霊長類学会会長ハンス・ウンマー氏より村長宛に「ニホンザルの保護及び研究地の適正な維持に関する要望書」が提出される。
1975 年 S 50	農作物被害が芋田地区から蛸田地区へ拡大。 6 月　京都大学霊長類研究所が野猿公苑に関するアンケート調査を実施する。 北限のサルの絵葉書、パンフレットを発行。 「サルおよびカモシカの恒久対策について」の会議が開催、文化庁の品田氏、県教育委員会の早川氏が出席。
1976 年 S 51	給餌量を大幅に減らす。群れの分裂の兆候が見られる。 貝崎までの海岸遊歩道が完成。 村は国・県に対してサルの保護に関する陳情。文化庁・環境庁の担当官が現地視察。
1977 年 S 52	村、日本モンキーセンターに保護のための調査を委託。(3 年間) 「イタコ」死亡。 村、サル専従員 1 名を採用。　環境庁・県が村へ調査費の補助。 環境庁・青森県・脇野沢村・日本モンキーセンターの 4 者で調査に関する話し合い。
1978 年 S 53	下北A群が分裂（7 月）【A1 群・A2 群】　分裂に伴い農作物被害が一気に広域化。 村、調査中間報告書「ヒトとサル　共存の道」を発行。 貝崎の餌場にニホンザル展示館が完成。
1979 年 S 54	A1 群が再び分裂（12 月)。【A1 群・A2 群・A3 群】 村の農協が文化庁・環境庁・林野庁へ猿害防止の陳情。 村、県知事宛に「北限のニホンザルに関する恒久保護対策について」の要望書を提出。
1980 年 S 55	分裂群の農作物被害が大きな社会問題となる。主群【A1 群】への大量給餌を再開。
1981 年 S 56	野猿公苑建設。(3250 万円) 4 月　村がサル捕獲申請を県を経て文化庁に提出。7 月A2 群・A3 群に国が許可。 12 月　A3 群 7 頭（♂3・♀4）捕獲。遊動域を変えていたA2 群は捕獲できず。

1982年S57	1月　A3群2頭（♂2）を捕獲。合計A3群9頭を野猿公苑で飼育。 3月　A3群9頭全頭がホースを伝わり檻から逃亡。 3月　捕獲用檻管理棟完成。 4月　村がA1群約84頭の捕獲申請を文化庁に提出。7月A2群・A3群を残すという条件で国が許可。 7月～10月　A1群83頭を捕獲。72頭（♂27、♀45）を野猿公苑で飼育。11頭を青石海岸・武士泊海岸へ放獣。
1983年S58	10月　村は農地を荒らすハナレザル約20頭の捕獲を文化庁へ提出。 11月　国が許可。11～12月計8頭（♂6、♀2）を捕獲。武士泊・大崎海岸へ放獣。 11月　京都大学霊長類研究所が野猿公苑のA1群の地域変異・寒冷地適応の研究のための健康診断を実施。
1984年S59	6月　村は農地を荒らすハナレザル約20頭の捕獲申請を文化庁へ提出。 7月　国が許可。7～9月合計19頭（♂12・♀7）を捕獲。7月十和田市の病院に5頭（♂3・♀2）を譲渡。10月に青森市城が倉温泉に11頭（♂7・♀4）を譲渡。残り3頭（左手のない♂と親子ザル）は集落外へ放獣。 A2群・A3群共、群れとして機能せず、個体数・遊動域が不安定な状態が続く。 11月　野猿公苑のA1群から8頭（♂4・♀4）を金木町芦野自然公園に譲渡。 取り残しサル21頭をA2-84群と命名。
1985年S60	2月　野猿公苑のA1群から5頭（♂4・♀1）を三沢市の保養センターへ譲渡。 取り残しサル8頭をA2-85群と命名。
1986年S61	
1987年S62	1985年S60に確認していた当時5頭の小集団をA87群と命名。
1988年S63	
1989年H元	3月　京大霊研・農水省農業生産資源研が「ニホンザルの花粉アレルギーに関するアンケート」を野猿公苑のA1群で実施。 8月　3年間の計画で野猿公苑の野猿遊牧柵の設置が始まる。
1990年H2	A2-85群の遊動域が源藤城地区まで広がる。
1991年H3	
1992年H4	A87群の畑への依存が少なくなる。♂の交代が原因か？ 8月　野猿公苑のA1群から10頭（♂5・♀5）を八戸市こどもの国へ譲渡。
1993年H5	サル・カモシカ保護並びに被害対策特別委員会が村議会にできる。
1994年H6	3月　村は文化庁宛の保護申請書（現状変更申請書）を県に提出、捕獲希望約30頭。 10月　県からの財政援助が得られることから捕獲申請書を取り下げる。 電気柵の設置開始。
1995年H7	電気柵の設置が進む。 青森県が下北半島のサルの生息等の調査を開始。（5年間）

1996年H8	革新的鳥獣害防止システム確立事業として、新たに滝山・片貝地区に電気柵が試験的に設置される。
1997年H9	脇野沢村の耕作地の9割近くまで電気柵が張り巡らされる。 3月　A2-85群「ウメ」死亡。
1998年H10	春先、脇野沢村寄浪・蛸田・九艘泊地区で民家侵入のサルが出没。新たなサル問題が発生。
1999年H11	12月　下北野生ニホンザル研究グループが下北全域のサルの一斉実態調査を実施。約20群、709頭＋αを報告する。
2000年H12	3月　A87群「サツキ」死亡。 7月　野猿公苑の鍵が壊され、一時的に親子一組を含む5頭が逃亡。その後、捕獲するが♂1頭が行方不明。10月にも網を破られるがサルの被害なし。 9月　県野生猿保護管理対策協議会が「下北半島ニホンザル保護管理基本計画」を策定。 10月　村は人家及び倉庫に侵入するハナレザル♂2頭の一時捕獲の申請を県に提出、許可を受ける。
2001年H13	3月　民家侵入の♂1頭を捕獲。野猿公苑に隔離飼育。残り1頭は捕獲できず。 3月　A2-84群「ツツジ」死亡。 7月　小沢地区の人家周辺に頻繁に出没するハナレザル♂2頭の一時捕獲の申請を県に提出。8月許可を受けるが、捕獲できなかった。 野猿公苑に監視用テレビカメラを設置する。
2002年H14	4月　野猿公苑の有料化が始まる。(大人200円・こども100円)
2003年H15	12月　A2-85群が川内町蛎崎地区まで遊動域を広げる。 O群が分裂。【O-1群・O-2群】 A2-84群「シャチ」死亡。
2004年H16	4月　青森県が特定鳥獣保護管理計画を策定、捕獲基準が明文化される。人的危害、民家侵入サルなどについては駆除を見据えた捕獲が認められる。 10月　村は11頭（A2-84群）+6頭（A2-85群）+7頭（ハナレザル）の合計24頭を人的被害を与える加害固体として捕獲（薬殺）を申請、県が認める。
2005年H17	1月～2月　計13頭（A2-84群9頭、A2-85群3頭、A87群1頭）を捕獲する。 3月末までに佐井村での1頭を含め、下北全体で14頭の♂ザルが捕獲される。 3月14日　脇野沢村はむつ市と合併、むつ市となる。

2006年H18	2月　青森県が2006年度の下北全域の駆除頭数を11頭とすることを認める。 5月　むつ市が下北のサルに対してプロジェクトチームをつくり、群れ捕獲を視野に入れた報告書をまとめる。 5月　野猿公苑の金網が破られ、一時的に15頭のサルが逃げ出すが、自発的に戻る。 5月9日　野猿公苑でハナレザル♂5歳を捕獲。 8月　桂沢地区で小学生が威嚇され、怪我をする人的被害が発生する。 9月12日　桂沢地区でハナレザル♂1頭7歳ぐらいを捕獲。
2007年H19	3月　A2-84群が分裂。【A2-84a群（約67頭）,A2-84b群（約47頭）,A2-84c群（約9頭）】 7月13日　野猿公苑でハナレザル♂6歳、♂6歳、♂5歳の3頭を捕獲。 8月6日　瀬野川目地区でA2-84a群の♂6歳を人的被害対象ザルとして捕獲。 12月25日　源藤城地区で人家侵入ザルとしてA2-85群の♂10歳以上を捕獲。 12月　NPO法人ニホンザル・フィールドステーションが8年ぶりに下北半島のニホンザル生息地全域の一斉実態調査を実施。下北全域で約44群、1632頭＋αを報告する。
2008年H20	1月　A2-84a群のサル♂4頭、♀1頭の計5頭を神社侵入ザルとして捕獲。 2月　A2-84b群の♀1頭、A2-84a群若♂1頭、A2-85群の♀1頭12歳以上の計3頭を人家侵入ザルとして捕獲。 3月　小沢地区でA2-85群の♂2頭（18歳、6歳）を人家侵入ザルとして捕獲。 むつ市経済部農林畜産課に鳥獣害対策室が設置、猿害対策の専従職員が配置される。 4月　青森県は第二次特定鳥獣保護管理計画を策定、個体数調整に伴う捕獲を認める。 8月1日　むつ市は猿害対策としてモンキードッグ（ジャーマンシェパード「ゴンタ」と「ハナ」）を導入。 12月　文化庁が個体数調整のための捕獲（下北全域で270頭）を認める。 12月　NPO法人ニホンザル・フィールドステーションが下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議から委託を受け、2年連続しての下北全域のサル一斉実態調査を実施。下北全域で約47群、1749頭＋αを報告する。

2009年H21	1月8日　野猿公苑でハナレザル♂20歳以上「ハモ」を人的被害防止で捕獲。 1月13日　上野動物園から捕獲されるサルから約20頭の譲渡の申し込み。 1月18日　川内町宿野辺地区で♀1頭10歳を人的被害防止のために捕獲。 2月9日　個体数調整のための捕獲が始まる。3月末までにA2-84a群から15頭（♂6、♀9）、A2-84b群から5頭（♂2、♀3）、A2-85群から28頭（♂9、♀19）、ハナレザル3頭（♂3）合計51頭を捕獲する。 4月23日　捕獲したA2-85群28頭のうち、21頭（♂4、♀16、当日出産したベビー1頭を含む）を上野動物園へ譲渡移送。 12月　NPO法人ニホンザル・フィールドステーションが下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議から委託を受け、3年連続しての下北全域のサル一斉実態調査を実施。下北全域で約51群、1861頭＋αを報告する。
2010年H22	1月24日　上野動物園で下北のサル23頭（飼育中に2頭出産）が公開される。 11月18日　野猿公苑でハナレザル1頭捕獲。 11月21日　野猿公苑でハナレザル1頭捕獲。 12月　NPO法人ニホンザル・フィールドステーションが下北半島のニホンザル被害対策市町村等連絡会議から委託を受け、4年連続しての下北全域のサル一斉実態調査を実施。下北全域で約56群、1923頭＋αを報告する。
2011年H23	O-2群が分裂。【O2-a群・O2-b群】 12月　NPO法人ニホンザル・フィールドステーションがむつ市に生息するニホンザルの生態実態調査を実施する。
2012年H24	2月　A2-84a群が松ヶ崎まで、A2-85群が宿野辺地区まで東進する。 3月　A87群の老猿「クルミ」が死亡。 4月　青森県が第3次特定鳥獣保護管理計画を策定、個体数調整ならびに群れ捕獲を認める。 12月　NPO法人ニホンザル・フィールドステーションがむつ市から委託を受け、むつ市管内に生息するニホンザルの生態実態調査を実施する。

《　参考文献　》

下北のサル　（どうぶつ社）
『モンキー』165・166　北限のサル特別号　日本モンキーセンター
むつ市教育委員会脇野沢庁舎からの資料
野猿保護事業　各年度の報告書　　脇野沢村教育委員会
「下北半島のサル」各年度の報告書　下北半島のサル調査会
むつ市経済部農林水産課鳥獣対策グループ保有の資料

下北半島のサル
２０１２年度(平成24年度) 調査報告書
発 行 者　ＮＰＯ法人
ニホンザル・フィールドステーション
発 行 日　２０１３年５月１０日
編集・印刷　松岡史朗
〒039-5326
青森県むつ市脇野沢桂沢90-1
TEL・FAX 0175(44)2620